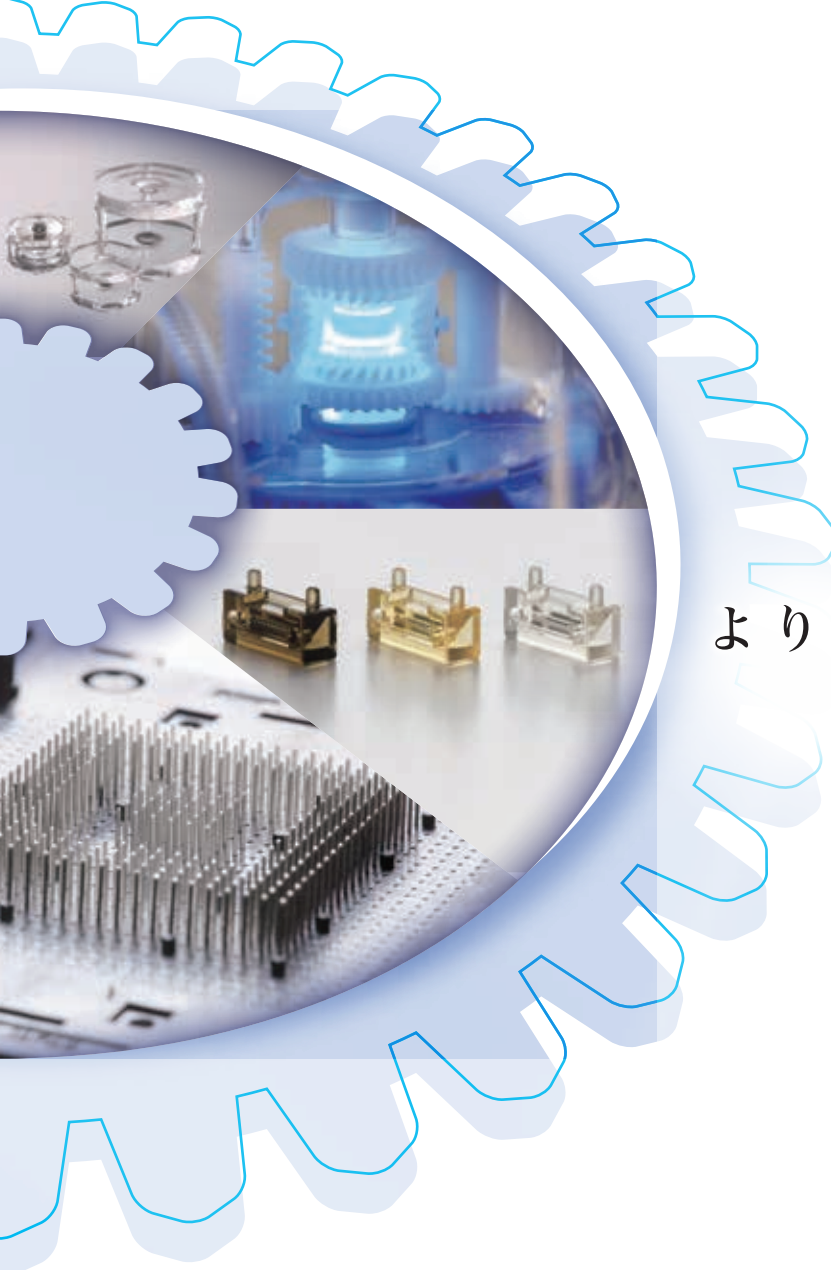


株式会社エンプラス

(証券コード:6961)



よりよき明日を目指して

2022年3月期(第61期) 報告書  
2021年4月1日から2022年3月31日まで

**enplas**



株式会社エンプラス

## Contents

- 01. 企業理念
- 02. 株主の皆様へ
- 04. 連結業績の推移
- 05. 事業別概況
- 06. サステナビリティに関する取り組み
- 09. 会社概要/株式情報/株主メモ
- 10. グローバルネットワーク 国内ネットワーク
- 巻末. グローバルネットワーク 海外ネットワーク



### わが社の使命

信頼の絆をもとに、あらゆる変化に対応する強靱な経営基盤を堅持し、

1. お客さまに感謝される製品とサービスを提供します。
2. 能力と成果を公正に評価し、社員の生きがいを育みます。
3. 株主の皆さまの期待に応え、企業価値の向上を目指します。

これらの実践を通して豊かな社会の発展に貢献します。

### 事業領域

エンジニアリングプラスチックで培った先進技術をもとに、さらに最先端技術を追求し、創造的価値を世界市場に提供します。

### 経営姿勢

1. 卓越した技術と信頼される製品により、競争力と成長力を追求します。
2. 健全な財務体質により着実な発展を図ります。
3. 全ての企業活動において確かな品質に責任を持ちます。

### 行動指針

1. 創造的な目標を掲げ、情熱を持って挑戦します。
2. 感謝の心と学ぶ姿勢を大切にします。
3. 公私を明確にし、公明正大に行動します。



## 株主の皆様へ

当社は、創業以来培ってきたエンジニアリングプラスチック総合技術のさらなる先進化と活用により、常に高精度、高機能、高品質を追求し、お客様に感謝されるより良い製品とサービスの提供を通して社会の発展に貢献してまいります。

代表取締役社長

横田大輔

### Q 第61期の経営実績、第62期の見通しについてお話しください。

当連結会計年度の売上高は32,894百万円(前期比11.7%増)となり、営業利益は3,600百万円(前期比69.8%増)、経常利益は3,451百万円(前期比81.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は2,528百万円(前期比182.9%増)となりました。

各セグメントの業績につきましては5ページに掲載しております。

世界経済は、各国で新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が普及し、行動制限が解除されたことにより、徐々に経済活動が再開され、景気回復の兆しが見えました。一方、変異株の感染拡大収束は予断を許さず、半導体不足、部品不足、物流網の混乱による供給制約も深刻化しました。また、ウクライナ情勢の悪化に伴う

資源やエネルギー価格の高騰、インフレの長期化が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

そのような状況の中、当社では「競争力と共創力による成長の実現」を第62期の経営基本方針として掲げております。当社は、顧客のニーズに対して当社グループの技術やソリューション提案力の強みを繋げることにより、課題の解決を通し社会に貢献するとともに、新規事業創出の機会としてまいります。

### Q 中長期の考え方についてお話しください。

当社経営の生命線は「新規性の追求」にあると考えており、顧客や関係する機関とこれまでに築き上げてきた信頼関係のもと、継続的に研究開発を行い、次の事業の種を蒔いております。

# 株主の皆様へ

事業ポートフォリオにつきましては、当社は今後、より Essentialな領域に注力してまいります。

Semiconductor事業とLife Science事業は事業自体がEssentialな領域であり、マーケット自体も成長領域です。Digital Communication事業とEnergy Saving Solution事業は、捻出した利益をEssential領域に振り向けるとともに、Essentialな領域へと業態転換を進めてまいります。事業ポートフォリオをシフトすることで変動の大きな事業運営ではなく「持続可能な成長」を目指してまいります。

## Q Essential領域についてお話しください。

当社では、Essential領域を「人と地球のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)を高める領域」と定義しております。医療費高騰や地球温暖化といった将来の社会課題の解決に貢献できるもの、民生やトレンドに左右されないものをEssentialとしております。例えば、同じ自動車でも、地球温暖化という将来の課題に貢献できるものとしては、環境車に関連する製品が該当します。当社はこれまでもEssential領域の事業に取り組み、その時代が必要不可欠な製品を提供し続けてまいりました。今後も、人々の豊かな生活と、健全な地球環境を両立するために必要不可欠な製品を提供し、将来の社会課題の解決に繋がる事業に注力してまいります。

## Q 株主還元についてお願いします。

当社は、健全・堅実な経営により強固な財務体質を堅持するとともに、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針としております。

上記の基本方針と当期の業績等を総合的に勘案し、中間配当については1株当たり22円50銭としました。また、期末配当については1株当たり2円50銭増配し、年間47円50銭に修正いたします。

## Q 株主の皆様一言お願いします。

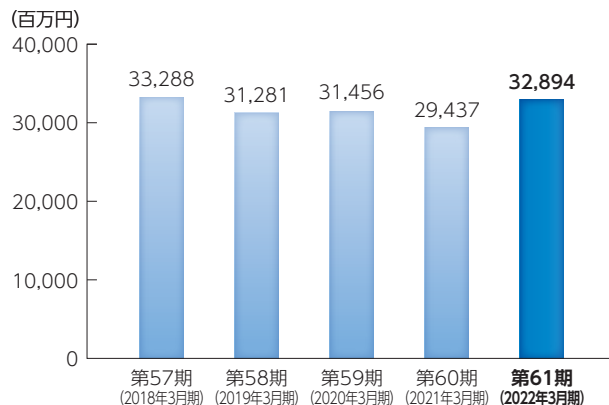
私たちは、創業以来培ってきた高精度・微細加工技術をもとに、当社にしか実現できない高付加価値製品の開発に挑戦し、お客様に感謝される製品・サービスを提供することで、豊かな社会の発展に貢献してまいりました。世界情勢は先行き不透明な状況が続く中、当社の技術を活用し、引き続き社会に貢献できる製品を開発してまいります。

また近年、中長期的な視点で企業価値を評価する際に、財務情報だけでなく、環境・社会・ガバナンスに関連する非財務情報を重視する傾向にあります。TCFDについては7ページ、サステナビリティに関する当社の取り組みは6～8ページに掲載しておりますので、ご覧頂けると幸いです。

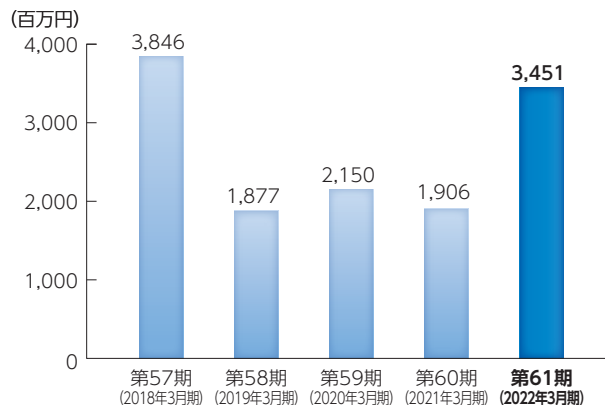
今後とも、株主の皆様にはより一層のご支援とご鞭撻を賜ります様、よろしく願い申し上げます。

# 連結業績の推移

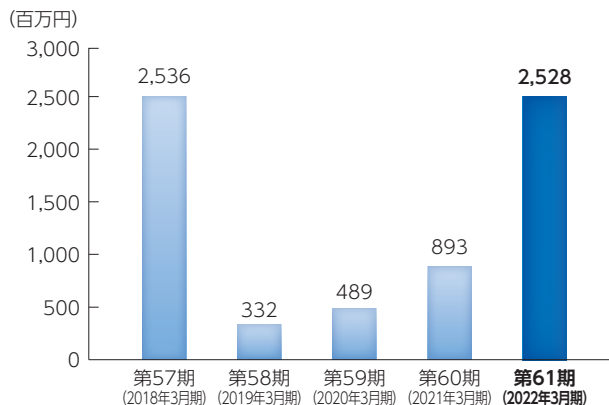
## ■ 連結売上高 ..... 1



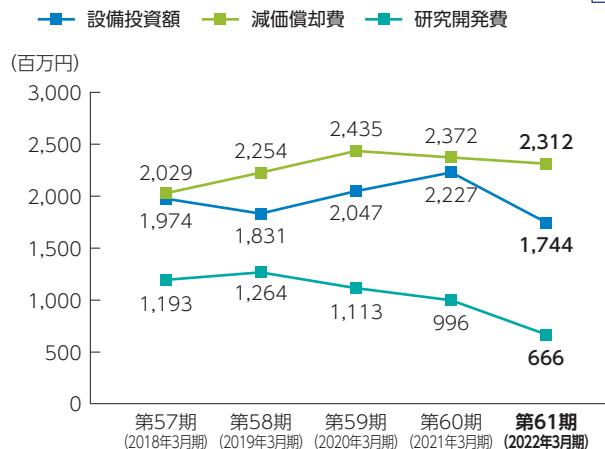
## ■ 連結経常利益 ..... 2



## ■ 親会社株主に帰属する連結当期純利益 ..... 3



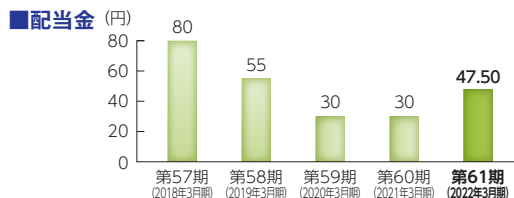
## ■ 設備投資額 / 減価償却費 / 研究開発費 ..... 4



## 株主還元について

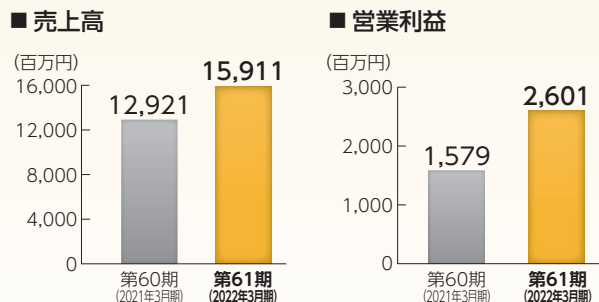
**1株当たり  
配当金47.50円**

当社では、経営活動の成果を明確な形で株主の皆様へ還元することを基本方針とし、また、安定配当の考え方も取り入れ、今期以降の業績等を総合的に勘案し、中間配当を含む年間配当を47.50円とさせていただきます。



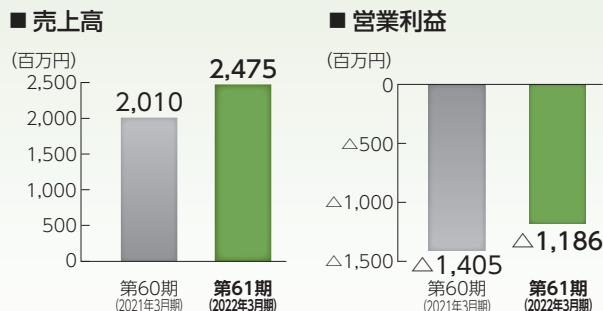
# 事業別概況

## Semiconductor 事業



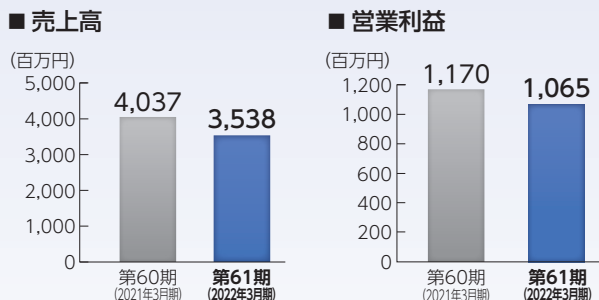
各種ICテスト用ソケット、バーンインソケットは、次世代高速通信普及に伴うサーバー、パソコン、自動車、アナログの各用途の需要が高水準を維持しました。

## Life Science 事業



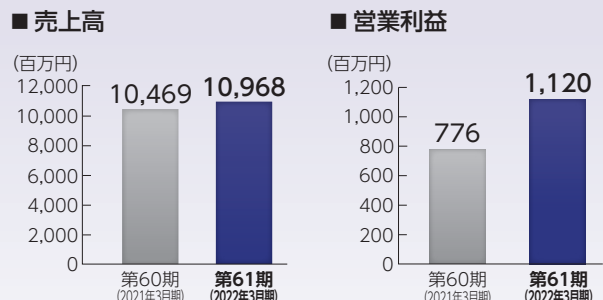
遺伝子検査用製品は、既存顧客及び新規顧客からの受注が増加し、試作受注も堅調に推移しました。なお、当該セグメントには、新規分野への先行投資や新事業開発が含まれております。

## Digital Communication 事業



光通信関連の光学デバイスは、世界的な半導体不足の影響による顧客の生産調整が継続しており、売上は低調に推移しました。

## Energy Saving Solution 事業



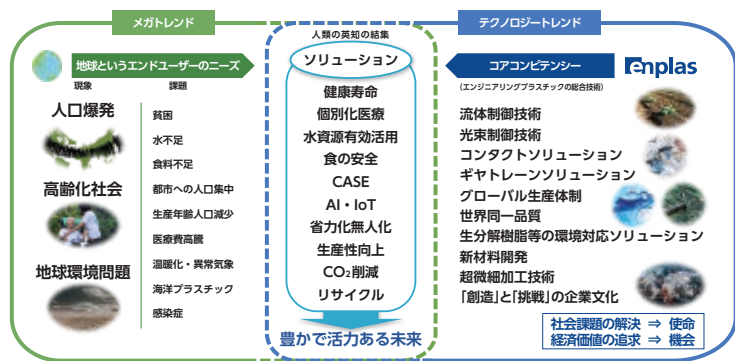
新型コロナウイルス感染症の影響による需要の落ち込みから回復基調にあり、前連結会計年度と比較し売上は好調に推移しました。

# サステナビリティに関する取り組み

当社は創業以来、エンジニアリングプラスチックによる超精密加工に特化し、創造的価値を世界市場に提供することで社会に貢献してまいりました。当社グループの経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社グループのコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。

## 〈エンプラスの目指す姿〉

近年、企業存続に向けたESGやSDGsへの取り組みや情報開示に対する社会の要請が高まっており、当社グループでは、社長のリーダーシップのもと、当社グループのコアコンピテンシーと社会課題を紐付けた「エンプラスの目指す姿」を策定するとともに、従業員に向けたESG情報の発信を行っています。



## 重要課題(マテリアリティ)の策定

当社グループが取り組むべき重要課題(マテリアリティ)をサステナビリティ委員会において特定し、取締役会で下記の重要課題を特定しました。(詳細は当社ホームページをご確認ください。)

## 重要課題の特定「人と地球のQOLを高めるEssential領域への貢献」

### 事業

#### Essential領域への事業ポートフォリオ転換

人々が「安心で快適な生活」を送るために必要不可欠であり、地球環境への負荷が低い社会の発展に貢献するソリューションを提供することで、社会課題の解決と経済価値の追求を目指しております。

### 環境

#### 生産性向上と環境負荷の低減

生産性を向上することにより、当社グループ内での電力消費、プラスチック廃棄による環境への負荷を削減してまいります。

### 人材

#### 組織力向上

Essential領域における社会課題を解決するソリューション提供に挑戦できる人材を育成してまいります。

# サステナビリティに関する取り組み

## 気候変動問題への取り組み (TCFD提言に基づく報告)

当社グループでは、気候変動は世界が直面している重大な課題であると認識し、GHG排出削減に向けた施策の推進など、気候変動に関する取り組みとTCFD提言に沿った情報開示の継続的な改善を行い、企業価値向上に努めてまいります。

## ガバナンス

当社グループは、気候変動に対応する重要課題（リスクと機会）を認識し、長期計画を策定・実行することにより持続可能な成長を実現いたします。

代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ委員会では、気候変動対応を含む重要課題（リスクと機会）に関する長期計画の策定、KGI/KPIの進捗管理などを行っています。

## 戦略

気候変動に関するリスクと機会は下記の通りです。

区分	マテリアリティ	リスク	事業機会	時間軸
移行リスク	気候変動に伴う原材料価格・電力価格の上昇	原材料価格・電力価格上昇による事業コストの増加	生分解性樹脂材料の開発とリサイクル材の積極的な活用	中期
	プラスチック規制の強化	プラスチック廃棄物処理コストの増加	樹脂材料使用を減少させる設計や金型の開発を促進	長期
	モビリティの電動化	内燃機関関連製品需要の減少	電動モビリティ用製品需要の拡大	長期
物理リスク	大規模自然災害	気象災害、特に洪水などによる自社工場被害やサプライチェーンの分断による工場操業停止	水・食料供給関連事業の拡大（殺菌、検査、点滴灌水）	長期

## 指標と目標

KPI	2021年度実績	2025年度目標
Essential売上比率	60%	75%
GHG排出量原単位 GHG排出量/売上高 (t/百万円)	原単位：0.6t	原単位：0.5t
樹脂材料廃棄率 廃棄量/投入量 (グローバル)	4.7%	4.0%



## Environment (環境)

### 環境方針

エンプラスは、エンジニアリングプラスチック及びその複合材による、高精度・高機能プラスチック精密機構部品・製品の開発、製造、販売に関わるあらゆる面で、地球環境の保全を企業の果たすべき重要な課題として捉え、その保護活動に積極的に取り組みます。

1. 環境目標を設定し、それを達成するために全社的な環境管理システムを構築し、継続的な改善向上を図ります。
2. 業務の合理化や改善等を通じ、環境負荷の低減・省エネルギー（電力使用量等削減／CO<sub>2</sub>削減）を推進します。
3. 廃プラスチックの削減と再資源化を推進します。
4. サプライヤーとの協働により調達品の環境負荷低減に努めます。
5. 環境規制や環境協定等を順守します。
6. 企業活動から汚染を排出しないようその予防に努めます。
7. 社会の一員として、地域の環境保護や維持に貢献します。

### 《適用範囲》

組織の単位・物理的境界	区分	適用範囲
工 株 式 会 社 エ ン プ ラ ス	グローバル本社	自己宣言
	本社	自己宣言
	鹿沼工場	審査登録
国 内 グ ル ー プ 会 社	株式会社エンプラス 研究所	自己宣言
	株式会社エンプラス 半導体機器	自己宣言
	QMS株式会社	自己宣言

## Social (社会)

### エンプラス品質方針

お客様に感謝されるより良い品質の製品とサービスを提供します。

1. エンジニアリングプラスチックを基盤とした総合技術による確かな品質で、世界市場のニーズに応え、社会の発展に貢献します。
2. 法令、規制、お客様の要求事項を遵守し、お客様から信頼を得られるよう行動します。
3. 品質マネジメントシステムの継続的な改善により、あらゆる変化に対応できる品質基盤を堅持します。

2020年6月10日改定

## Governance (ガバナンス)

### コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

当社の経営方針・企業精神・企業倫理を具現化したものが企業理念であり、社会の発展に寄与すべき企業使命を明確にするとともに当社のコーポレート・ガバナンスの基本原則となっております。その企業理念に基づき、持続的な企業価値の向上を実現する為に、「エンプラス コーポレート・ガバナンス ポリシー」を制定し、コーポレート・ガバナンスの継続的な充実に取り組んでおります。

# 会社概要 / 株式情報 / 株主メモ

(2022年3月31日現在)

## 会社概要

商号 株式会社エンプラス  
所在地 埼玉県川口市並木2丁目30番1号  
設立 1962年2月21日  
資本金 80億8,045万円  
従業員数 1,563名(連結)

(2022年6月27日現在)

## 取締役

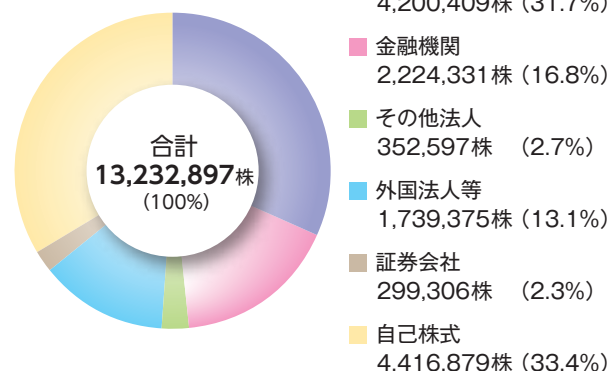
代表取締役社長	横田 大輔
取締役兼経営執行役員	藤田 慈也
社外取締役(監査等委員)	井植 敏雅
社外取締役(監査等委員)	久田 眞佐男
社外取締役(監査等委員)	天羽 稔
取締役(監査等委員)	當間 和幸

(2022年3月31日現在)

## 株式情報

発行可能株式総数	62,400,000株
発行済株式総数	13,232,897株
株主数	3,541名

### 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
郵便物送付先、連絡先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部(お問い合わせ) ☎0120-288-324
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日
公告方法	電子公告 ( <a href="https://www.enplas.co.jp/">https://www.enplas.co.jp/</a> ) ただし、電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載する方法とします。 貸借対照表、損益計算書は、決算公告に代えてEDINET ( <a href="https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/">https://disclosure.edinet-fsa.go.jp/</a> )にて開示しております。
上場証券取引所	東京証券取引所

# グローバルネットワーク

## ■ 国内ネットワーク

### グローバル本社

東京都千代田区丸の内1丁目6番2号 新丸の内センタービルディング9F

### 本社

埼玉県川口市並木2丁目30番1号



東京都  
・グローバル本社  
京都共創センター



鹿沼工場

埼玉県川口市

・本社  
・株式会社エンプラス研究所  
・QMS株式会社  
・株式会社エンプラス半導体機器

名古屋営業所  
四日市営業所

九州営業所



本社



鹿沼工場



株式会社エンプラス半導体機器



QMS株式会社



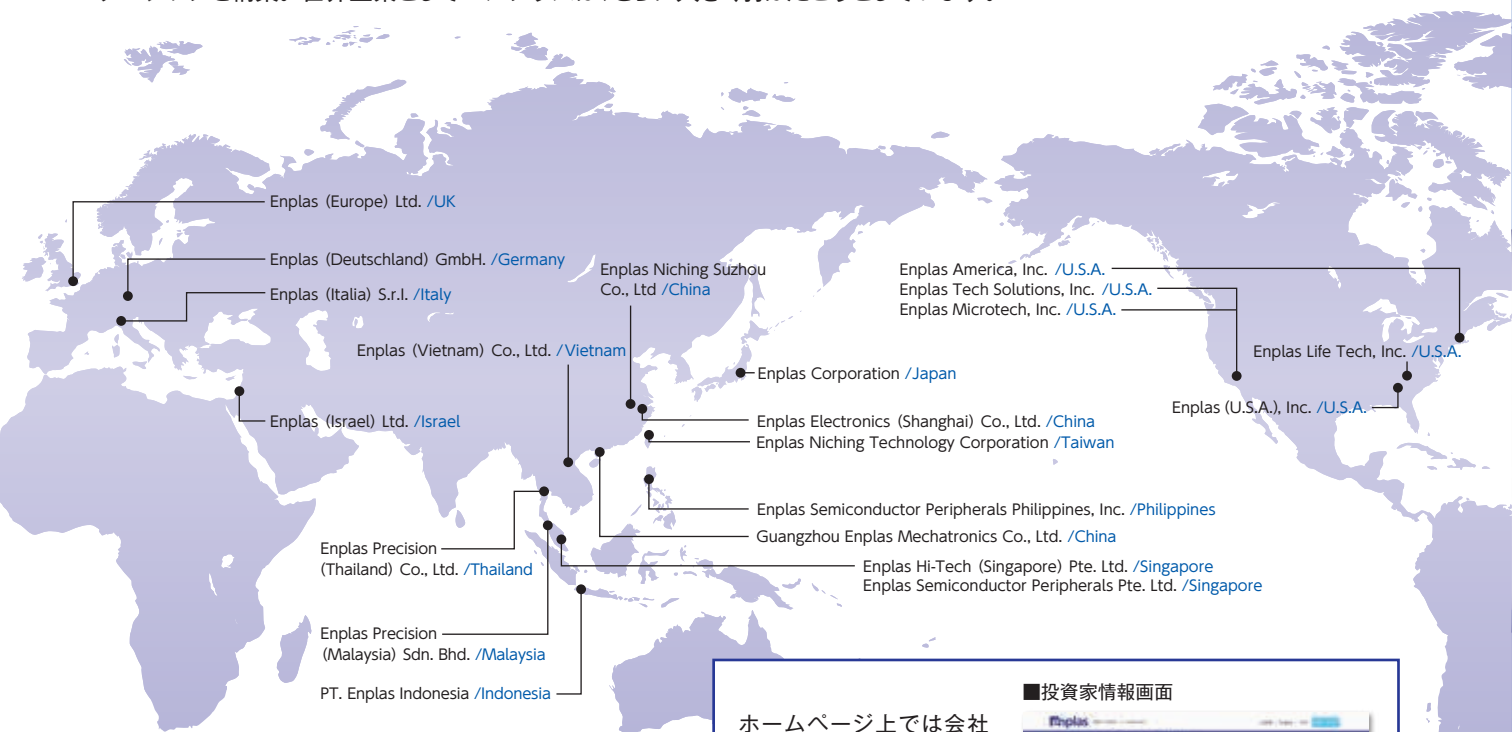
株式会社エンプラス研究所

# グローバルネットワーク

## ■ 海外ネットワーク

### 技術の絆。信頼の絆。活躍の舞台はグローバルです。

アジア、アメリカ、ヨーロッパにある世界拠点を結ぶグローバルネットワークによって24時間稼働し続ける「エンプラス」グループ。こうしたグローバルネットワークを通じて、企画・開発段階から、各産業界のトップメーカーと技術に裏打ちされた信頼のパートナーシップを構築。世界企業としてエンプラスは、さらに大きく羽ばたこうとしています。



## 株式会社エンプラス

〒332-0034 埼玉県川口市並木2丁目30番1号

Tel : 048-253-3131 (代表) Fax : 048-255-1688

<https://www.enplas.co.jp/>

UD FONT

見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



### ■ 投資家情報画面

ホームページ上では会社概要、財務情報をはじめ業務内容やプレスリリースなど最新の情報を幅広くお知らせしています。ぜひご覧ください。

エンプラス IR 検索

